

平成29年12月11日

平成29年度 第2回 大阪市立十三中学校 学校協議会 実施報告書

校 名 大阪市立十三中学校
 校長名 森 健

| | | | |
|----------|---|--|-------|
| 日 時 | | 平成29年12月11日（月） 19時00分～20時30分 | |
| 場 所 | | ミーティング ルーム | |
| 出席者 | 委員 など | 中瀬 敏和（会長） 中村 隆樹（副会長） 脇 順子（委員） 山口 一二三（委員） | |
| | 校 園 | 森 健（校長） 吉田 直史（教頭） | |
| | 区役所 | 山本 正広（淀川区長） 昇 辰雄（市民協働課 課長代理） | |
| 議題 | | (1) 区役所より (2) 学校より報告・説明 (3) 討議 案件①「運営に関する計画・自己評価（中間評価）」について ②学校の現況について ③その他 | |
| 協議 要旨 | 協議の結果 | | 意見の概要 |
| | (1) | 区役所より資料を使用して説明 ◎区長挨拶 ①第2回学校協議会について ②平成29年度全国学力・学習状況調査の結果について ③学校安心ルールの進捗状況について ④ヨドネル（睡眠習慣改善）の取組について | |
| | (2) 学校より報告と説明および討議 (3) ◎「運営に関する計画・自己評価（中間評価）」について ①健康や体力を保持増進する力の育成 ・部活動における退部者を5%以内に抑える。 ・遅刻を減少させる方策として、睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）と連携し、基本的生活習慣を確立する。 | *部活動入部率85%を維持できているが、退部生徒も1%存在する。生徒に寄り添い、0%を目標として欲しい。 *遅刻総数が昨年度の1.5倍となっている。特定の生徒が遅刻を常習化させることにより、総数が増加している。生徒および保護者への個別対応を強化してい | |

| | | | |
|------|--|---|--|
| | | <p>②地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1日に30分以上読書する」と回答した生徒の割合が約3ポイント減少している。 <p>③子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エブリデイ・ホームワークを実施して、家庭学習習慣の定着を図る取組を継続している。 <p>④安全で安心できる学校、教育環境の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員が生徒と触れ合う機会を増やし、いじめ等の早期発見・早期対応を実行する。 <p>⑤道徳心・社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が地域社会の住民等と交流する場を設定する。 <p>⑥その他</p> <p>①『学校安心ルール』について今年度中に全校生徒に配付し学校HPにアップする。このルールを保護者や地域社会に浸透させる。</p> | <p>って欲しい。</p> <p>*不登校が多いのか。どのような生徒および家庭状況なのか。生徒の障がい起因することや劇場関係等、やむおでない部分もある。</p> <p>*学校図書館の常時開館を継続して欲しい。本に親しむ機会を、教科等、教育活動全般にわたり、本に親しむ機会を増加させて欲しい。</p> <p>*学力差は淀川区内でも存在するのか。その差および学年の学力差への対応策が必要ではないか。</p> <p>*システムとしては定着してきたが、学力向上には関しては明確な成果が現れていない。しかし、根気強く継続することによって、徐々に効果が出る可能性がある。ので、継続して欲しい。</p> <p>*いじめが解決しないケースとはどういうことか。粘り強い対応をお願いする。</p> <p>*転校していじめが解決するケースはあるのか。システムがあるので、実行する価値があるのではないか。</p> <p>*目標回数をクリアすることも重要だが、質的な充実を図って欲しい。</p> <p>*『学校安心ルール』について、了承を得た。生活指導のひとつの基準として試行的に運用することを確認していただいた。</p> |
| 協議資料 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート） ・平成29年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート） ・全国学力・学習状況調査の経年回帰分析 ・学校安心ルール | | |
| 備考 | <p>傍聴者[0]名</p> <hr/> | | |

